

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市縄文の森広場
2 指定管理者	公益財団法人仙台市市民文化事業団
3 指定期間	平成29（2017）年4月1日～令和4（2022）年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和2年度 8,491人（前年度比 33.3%） 令和元年度 25,462人 平成30年度 30,907人
	《事業》 ・山田上ノ台遺跡の常設展示及び野外展示、縄文時代に関わる展示事業（企画展示） ・講座やイベント、体験学習を通じた教育普及事業及び調査・研究事業
5 収支の状況	《費用》 （ ）は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 67,663千円 （ 64,727千円） ・ その他市が負担した費用 0千円 （ 0千円）
	《収入》 ・ 使用料収入 235千円 （ 525千円） ・ その他収入 269千円 （ 1,538千円）
6 利用者の声	《実施状況》 令和3年2月26日 近隣学校・町内会・団体が出席する運営懇談会を実施 令和2年12月1日～12月27日 利用者アンケートを実施

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針が確立されており、山田上ノ台遺跡の保存・公開、縄文時代の復元林・復元住居の管理・公開等について、職員が十分理解している。また、縄文時代の調査・研究、展示、体験活動を主とする普及啓発事業を通して、本市の歴史文化の保護・向上といった目的を達成している。なお、学校等と連携し学習機会の充実や学習支援を行っている点を加点点評価する。 市内の小中学校と施設間のバス代を補助する利用学習事業について、バスの利用定員の半数での運行を提案し、コロナ禍においても安全に実施できる環境を整え、参加校を再度募るなど、施設の学習機会を広げるための努力は評価に値する。	30/27
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績・配置状況は適切であり、事業計画書の通り開館しており、指定管理料も適正に執行されている。個人情報の保護、事故防止や事故発生時および災害発生時の対応体制も確立され、事故発生時には迅速に報告書を提出されている。毎朝の職員朝礼が行われ、連絡事項だけでなく、過去の事故事例等を踏まえた改善策・再発防止策も共有されており、安全性の向上に努めている。	24/24
III 施設・設備の維持管理	建物や設備、備品は適切に管理され、来館者の安全性の確保、清潔な環境が整えられており、利用者が安心して利用できる状態を保持している。また、仙台市環境行動計画に則り、節電・節水などの省エネ、リサイクルに努めている。野外展示の復元林・復元住居及び植栽についても適切な維持管理が行われている。	24/24

<p>IV サービスの質の向上</p>	<p>職員の接客マナー・受付案内業務はともに良好である。パンフレットやチラシなど館独自の印刷物の作成・配布、市政日より、ホームページやFacebook、今年度から開設したYouTubeなど幅広い広報手段を活用し、広い世代へ情報を発信している。利用者からの苦情・意見に対しては、職員で対応を協議した後、館内で回答を掲示するなど、サービスの質の向上への取り組みがみられる。</p> <p>なお、広報等による利用促進の取り組みについて加点評価する。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で臨時休館や利用制限が生じる中、YouTubeやFacebook、オンライン配信を通して、イベントや講座などの積極的な博物館情報の発信を行った。この取り組みは、時代や市民のニーズに寄り添い、来館せずに博物館情報を受容できる環境を整備したこと、利用者層の拡大につながったこと、今後の施設の事業展開に期待できる取り組みとして評価する。</p>	<p>29/28</p>
<p>V 施設固有の基準</p>	<p>協定書や仕様書に基づき適切に施設を管理すると共に、新型コロナウイルス感染症対策を施しつつ、事業計画書に従って適切に事業を実施している。また、イベントを通して近隣の学校や地域社会と良好な関係を構築しつつ発展的に事業を展開している。</p>	<p>14/14</p>

三 評価総括

<p>《指定管理者（公益財団法人仙台市民文化事業団）による自己評価》</p>
<p>新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休館と大幅な体験学習の利用制限が行われ、館本来の機能を発揮することができず、利用者へ十分なサービスの提供ができなかった。ただし、制限下の中で最大限の魅力を発信できるよう下記の取り組みを行った。</p> <p>管理運営にあたっては、職員および所管課と感染症対策について綿密な打ち合わせを行うことで、利用者に安心・安全な環境を整備し、提供することができた。</p> <p>展示事業に関しては、臨時休館に伴い大幅に期間が少なくなったこともあり、展示期間の延長などの措置をとり、利用者が見学できる機会を可能な限り創出した。</p> <p>体験学習の中核を担う随時体験は、利用者・職員の安全・安心を確保するため、土日祝日のみ申込制で体験メニューを限定して実施した。来場者への満足度向上のために、クイズラリーを実施し、ボランティアの手作り景品をプレゼントして対応を行った。</p> <p>学校利用では、利用学習事業に13校が参加した。コロナ禍のため校外学習の限定された状況で、学校利用の受け皿として機能できたことは教育的観点から大きな意義があった。また、地域協働事業としては、近隣小学校や児童館などと事業を実施することで、地域の施設としての役割を担うことができた。規模を縮小して実施した「縄文まつり」において、出演機会の減少した団体などに出演してもらえたことも同様の意義がある。</p> <p>情報発信としては、臨時休館時に全国的な博物館活動である「おうちミュージアム」に参画し、動画を撮影するなどSNSを利用した積極的な投稿を行った。また、講座の実施やボランティアとの情報共有では、積極的にオンライン配信を活用して、単純に人数を減らすのではなく、誰もが参加できる機会をつくるよう意識した。</p> <p>新型コロナウイルスの影響は今後も続くと考えられるが、積極的な姿勢で事業を展開していきたい。</p>

<p>《施設設置者（仙台市）による評価》</p>	<p>総合評価</p>
<p>施設の運営管理体制については、協定書や仕様書等に基づき適切に業務が行われている。施設の維持管理については、縄文時代の復元森や堅穴住居の日常管理が行われ、異常や事故が発生した時には適切に対応している。体験学習を主とする施設のため、新型コロナウイルス感染症対策に伴い活動内容が大幅に制限され、来館者数は3分の1に減少したが、体験メニューや運営方法を随時見直し、クイズラリーなど新たなイベントを追加するなど、施設の設置目的を最大限に果たそうとした努力を評価する。学校利用や地域連携事業については、小中学校の利用学習や地元の小学校との連携イベントや、例年より縮小した「縄文まつり」を実施して市民の発表の場を提供するなど、規模を縮小しながらも学習機会や地域協働の取り組みを継続している。また、YouTubeやFacebookの利用による博物館情報の提供、オンラインでの講座配信など、博物館情報を幅広く発信できる環境を整備し、利用者層の拡大につながったことは、今後の施設の事業展開に期待できる取り組みとして評価する。</p>	<p>S</p>

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

<p>特記事項</p>
<p></p>

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部文化財課